

4. 新聞等に掲載された研究

解剖学第二講座 (Anatomy II)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
分部哲秋・講師	長崎県の古人骨における形質人類学的研究	長崎新聞	'99. 12. 22	長崎県出土弥生人骨の形態的特徴を縄文人および北部九州地域の渡来系の弥生人と比較する中で、大陸の人々と当時どのような交流があったかを示した。

細菌学講座 (Bacteriology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片峰 茂・教授	ATL ウイルス母子感染予防	週間文春	2000. 2. 17	長崎県における ATL ウイルス母子感染予防のための母乳回避介入は開始後12年が経過した。この間、約1,000件の母子感染を予防し、約50名の ATL 発症を防止した。このことにより ATL 征圧の展望が拓かれた。

衛生学講座 (Preventive Medicine & Health Promotion)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
齋藤 寛・教授	カドミウムの健康影響	朝日新聞	1999. 5. 15	「イタイイタイ病」の前段症状であるカドミウムによる腎臓障害が多発した秋田県小坂町で、汚染土壌の改良後は、新たな障害が出ていないことが長崎大学医学部の調査で判明。障害があった人の症状は進行したが、改良後に誕生した人の尿中カドミウムは正常値だった。

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 変異遺伝子解析研究分野

(Department of Human Genetics, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
新川詔夫・教授	遺伝子が開く21世紀の医療	NHK 教育	2月14日	ヒトゲノム解析の進行に伴う医学・医療の発展を広く社会に啓蒙する。
新川詔夫・教授	「出生前診断」勉強会	毎日新聞	11月23日	出生前診断・遺伝カウンセリングの実際とその周辺知識について広く社会に対して分かりやすく解説。
新川詔夫・教授	遺伝子診療の現状と方向	メディカル トリビューン	9月2日	ヒトゲノム解析の進歩に伴う種々の疾患の遺伝子診断の現状と問題点をとりあげた第6回日本遺伝子診療学会のシンポジウム。

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 分子診断研究分野

(Department of Nature Medicine, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	チェルノブイリ長期医療支援	産経新聞	99.1.25	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	長大通信衛星で遠隔医療支援	長崎新聞	99.1.31	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	ヒバクシャ医療支援	長崎新聞	99.2.3	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	被ばく者医療ネット開通	朝日新聞	99.2.3	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	通信衛星で診療データ送受信	毎日新聞	99.2.3	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	チェルノブイリ遠隔医療支援	西日本新聞	99.2.3	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	「心の傷の癒しを問う」	毎日新聞	99.3.23	ワイツゼッカー元大統領との対談
山下俊一・教授	「台湾の放射能汚染問題」 翻訳・出版	朝日新聞	99.6.23	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	原研公開セミナー	長崎新聞	99.8.8	原爆と放射線関連
山下俊一・教授	原研公開セミナー	朝日新聞	98.8.8	原爆と放射線関連
山下俊一・教授	長崎から医療支援	朝日新聞	99.8.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	遠隔医療システム開通	読売新聞	99.8.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	遠隔医療診断支援システム稼働	長崎新聞	99.8.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	被ばく者治療、広がる支援	西日本新聞	99.8.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	遠隔医療診断支援システム稼働	長崎新聞	99.8.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	「セミパラリポート」	N H K	99.9.24	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	「旧ソ連のヒバクシャを救え」	N H K	99.9.25	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	「旧ソ連のヒバクシャを救え」	N H K	99.9.26	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	Medical Progress Offers Hope for Japan Radiation Victims Disaster	Los Angeles Times	99.10.5	東海村原発事故
山下俊一・教授	「海を越えた被爆者医療」	N H K	99.10.10	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	Thyroid Cancer Around Nuclear Test Site	London Times	99.10.30	国際ヒバクシャ医療協力
山下俊一・教授	「自滅遺伝子」酵素で刺激	日経新聞	99.11.12	遺伝子治療

原爆後障害医療研究施設 分子医療部門 分子治療研究分野

(Department of Hematology, Molecular Medicine Unit, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
朝長万左男 ・教授	第5部 被爆国から 続 核兵器廃絶への道	朝日新聞	1998. 7. 29	原爆後障害研究の平和構築への貢献
朝長万左男 ・教授	被爆地から 長崎「核廃絶」シンポを 前に	朝日新聞	1998. 8. 3	長崎原爆の人類史上における位置づけ。とくに放射能と人類の生存の問題

原爆後障害医療研究施設 国際放射線保健部門

(Department of International Health and Radiation Research, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
高村 昇・助手	遠隔医療診断支援システム	長崎新聞	1999. 1. 31	ゴメリ州立センターと小児甲状腺がんの診断データを送受信
	遠隔医療診断支援システム	朝日新聞	1999. 2. 3	被ばく者医療ネット開通、長崎大とベラルーシ、超音波画像など診断
	遠隔医療診断支援システム	毎日新聞	1999. 2. 3	一緒に早く治そう、ベラルーシ-長崎大医学部通信衛星で診断データを送受信
	遠隔医療診断支援システム	西日本新聞	1999. 2. 3	診断や治療方法を衛星でやり取りするベラルーシ間とのシステム開通
	遠隔医療診断支援システム	厚生福祉財団	1999. 3. 3	衛星使って被ばく治療支援、国際化進む日本の遠隔医療
	ベラルーシ大使長崎訪問	長崎新聞	1999. 5. 7	ピータクラウチャンカベラルーシ大使長医学部医療支援システム視察
	ベラルーシ大使長崎訪問	西日本新聞	1999. 5. 7	ベラルーシ大使遠隔医療システムで謝意ベラルーシ大使が訪問
	ベラルーシ大使長崎訪問	長崎新聞	1999. 5. 7	駐日ベラルーシ大使、長大医学部の遠隔医療支援システム視察
	ベラルーシ大使長崎訪問	西日本新聞	1999. 5. 7	遠隔医療システム開始で謝意「核の怖さともに世界へ」
	台湾放射能汚染マンション	朝日新聞	1999. 6. 23	実態告発の本、翻訳・出版「台湾の放射能汚染問題」原研などが協力
	カザフスタン外務次官長崎大訪問	長崎新聞	1999. 7. 6	カザフスタン外務次官長崎大訪問
	遠隔医療診断支援システム	長崎新聞	1999. 7. 6	カザフの核実験被ばく者、長崎大が医療支援へ、情報システムを導入
	カザフスタン外務次官長崎大訪問	毎日新聞	1999. 7. 6	「被爆医療支援に感謝」カザフスタン外務次官、長崎大など訪問
	カザフスタン外務次官長崎大訪問	朝日新聞	1999. 7. 6	「復興の努力に感激」カザフスタン共和国第一外務次官が来訪

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	カザフスタン外務次官長崎大訪問	西日本新聞	1999. 7. 6	カザフのエルラン・イドリソフ第一外務次官来訪、医療支援に感謝
	セミパラチンスク原爆展	朝日新聞	1999. 8. 1	旧ソ連セミパラチンスク、初の核実験から50年 手を結ぶ「被ばく都市」、長崎写真展など交流進む
	セミパラチンスク原爆展	長崎新聞	1999. 8. 2	セミパラチンスクの核実験写真展、原爆資料館で始まる
	セミパラチンスク原爆展	読売新聞	1999. 8. 2	旧ソ連核実験場写真展始まる
	原研公開セミナー	朝日新聞	1999. 8. 8	米・カザフの医師ら核施設の影響報告
	原研公開セミナー	長崎新聞	1999. 8. 8	米医師ら食料汚染の実態など放射線の影響報告
	カザフスタン大使長崎訪問	朝日新聞	1999. 8. 11	「被ばく国民同士 連携を」カザフ大使、長崎市長を訪問
	遠隔医療診断支援システム	朝日新聞	1999. 8. 30	長崎から医療支援
	遠隔医療診断支援システム	毎日新聞	1999. 8. 30	長崎大学の遠隔医療支援システム、セミパラチンスク市と回線接続
	遠隔医療診断支援システム	読売新聞	1999. 8. 30	長崎大医学部とセミパラチンスク医学アカデミー間で、衛星通信を利用した遠隔医療診断支援システム開始
	遠隔医療診断支援システム	長崎新聞	1999. 8. 30	通信衛星やTV電話で結ぶ

原爆後障害医療研究施設 資料収集保存部 生体材料保存室

(Tissue and Histopathology Section, Division of Scientific Data Registry, Atomic Bomb Disease Institute)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
内藤慎二・助手	遠隔診断システム開通	西日本新聞	1999. 8. 30	セミパラチンスク医科大との間で、通信衛星を利用した医療データ送受信システムを開設した。同医科大から送信された病理細胞の画像について説明した。

内科学第一講座 (Internal Medicine I)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
芦澤 潔 人	長崎大と原発事故被害のベラルーシ衛星通信で医療支援	毎日新聞 長崎新聞	1999. 2. 3	チェルノブイリ原発事故により小児甲状腺がんが多発したベラルーシ共和国のゴメリ州立検査センターと長崎大学医学部の間で国際ヒバクシャ学術情報交換システムが稼働した。甲状腺の超音波診断と細胞診のデータが両国間で衛星通信により送受信される。
芦澤 潔 人	セミパラチンスク医大病院への遠隔医療支援システム稼働	朝日新聞 長崎新聞 毎日新聞	1999. 8. 30	旧ソ連核実験場被ばく者診断のため通信衛星を用いてカザフスタン共和国のセミパラチンスク医科大学附属病院と長崎大学医学部との間で遠隔医療支援システムが稼働した。甲状腺超音波診断と細胞診のデータが両国間で送受信される。

内科学第二講座 (Internal Medicine II)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河野 茂 教授	映画「福江島」	長崎新聞	99. 2. 2	インフルエンザ題材の映画「福江島」のロケ地三井楽における試写会が開催され、感染症対策の重要性が再確認された。
河野 茂 教授	抗菌薬の効果的投与デザイン	ケアネット TVチャンネル (SKY Perfect TV 722 Ch)	99. 6. 10	第46回日本化学療法学会総会での抗菌薬の効果的投与のデザインに関してシンポジウムが開催され、その内容がビデオとなりテレビ放送された。
河野 茂 教授	遠隔医療の実証事業	日本経済新聞	99. 2. 1	長崎大学第二内科と中央システム技研との協同開発による診断支援システムで遠隔地を安価なネット回線でつなぐことによるシステムの確立
大園 恵 幸 助 教授	第2内科の最近の研究	いずみ	99. 1月号	当内科の臨床、研究内容を広く社会に広報するものである。

内科学第三講座 (Internal Medicine III)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
品川 達 夫 講師	高血圧症の話し	NCC テレビ健康塾	1999. 1. 16	高血圧症に関して一般向けに解説
矢野 捷 介 教授	狭心症と心筋梗塞	NCC テレビ健康塾	1999. 1. 23	狭心症と心筋梗塞について一般向けに解説

外科学第二講座 (Surgery II)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
兼松隆之 教授	医学史	読売新聞	1999. 8. 23	国際外科学会機に長崎の歴史を世界に

皮膚科学講座 (Dermatology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山一朗 教授	この頃のアトピー性皮膚炎	座談会	1999/5/7	近年の生活様式、環境変化がアトピー性皮膚炎にどのような影響を与えているかを検討した。
片山一朗 教授	蕁麻疹のいろいろ	KBC 第1027回 アレルギー 談話室	1999/6/3	蕁麻疹の病因と治療について、最近の知見を述べた。
片山一朗 教授	皮膚疾患とサイトカイン、ケモカイン(第98回日本皮膚科学会総会教育講演I)	ケアネットメ ディカルチャ ンネル「専門 医療の今」	1999/7/5	皮膚におけるケモカインの動態と皮膚疾患の発症について概説した。
片山一朗 教授	夏のアウトドアでの病気 —この病気にコレガ効く：夏の皮膚炎(シイタケ、夏野菜、マンゴーでも皮膚炎や蕁麻疹が)	日刊ゲンダイ	1999/8/23	夏に注意すべき皮膚症状を一般向けに解説した。
片山一朗 教授	シラミが不気味に復活	長崎新聞	1999/7/25	毛虱、頭虱の最近の動態についてコメントした。

放射線医学講座 (Radiology)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東昌子 講師	マイクロCT装置が骨を見る	The EM教育 医事新聞	1999. 8. 25	マイクロCT装置による骨微細構造の評価について紹介した
伊東昌子 講師	女性のための骨フォーラム：骨粗鬆症を考える	読売新聞	1999. 10. 19	骨粗鬆症に関する市民公開講座を紹介した
上谷雅孝 助教授	50肩の画像診断	ラジオ短波 医学講座	1999. 9. 8	臨床医向けに50肩における画像診断の要点を解説した

脳神経外科学講座 (Neurosurgery)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田尚武 教授	“夢が現実に” 脳疾患治療の今	毎日新聞	'99. 3. 24	脳疾患に対する高度先進医療の普及

代謝疾患治療部 (Unit of Metabolism)

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
豊里英子 栄養管理室長	チーム医療における栄養 部門のかかわり	九州医事新報	平成11年 6月20日	第25回医学会総会において「チーム医療における栄養部門のかかわり」について述べたことを2回に分けて報告する。1回目は長崎大学の糖尿病管理システムにおける栄養士の関わりについて重点的に述べる。
豊里英子 栄養管理室長	チーム医療における栄養 部門のかかわり	九州医事新報	平成11年 7月20日	前回に引き続き2回目は糖尿病及び動脈硬化の発症予防の試みについて述べる。糖尿病発症予防としては1990年より調査研究している妊娠糖尿病について妊娠中の治療から分娩後のフォローまでを、動脈硬化抑制については1998年より開始した保健管理センターとの共同事業である学生及び職員に対して実施している栄養指導について述べた。